

令和7年度 地域を志向した研究 成果報告書

テーマ		静岡製造業集積のネットワーク形成と「オープンファクトリー」： 国際化に向けての取り組み					
研究 組 織	代表者	所属・職	国際関係学部・准教授		氏名	宮崎晋生	
	連	所属・職	氏名		所属・職	氏名	
	携	静岡経済研究所 研究員	阪口 瀬理奈				
	研						
	究						
	者						
研究の目的、 内容、方法、 研究成果、 今後の課題等		<p>本研究は以下の3点を目的とした：</p> <p>1) 静岡県内製造業企業の連携促進における大学の役割</p> <p>2023年度より開始された地域一体型オープンファクトリー「静岡工場博覧会（ファクハク）」に令和7年度も引き続き注目して関与した。これに学生の視点からの参与観察・経営者インタビューを行い、SNSでの発信を行いつつ新たな地域企業連携と異分野連携による innovation の可能性を模索した。大学および学生が地域企業ネットワークに関わることによる innovation 可能性について引き続き関与した。</p> <p>2) 「オープンファクトリー」の社会経済的効果：ネットワーク形成 から「ブランド化」へ</p> <p>他方、オープンファクトリーは、工場公開や観光資源化にとどまらず、企業間連携や異業種コラボ、産官学民の越境的ネットワーク形成を促す装置として機能している。大田区や燕三条では新事業創出・ブランド力向上など地域経済に大きな波及効果が見られる。一方、静岡県はまだ初期段階であり、企業努力だけでなく自治体改革や人材育成を含む地域マネジメントが不可欠である。世界市場に向けてプロモーションすることが国内他地域との競争を図る上で今後静岡でも必要となるであろう。</p> <p>3) 大学の果たすべき役割：Entrepreneurship 育成、国際展開</p> <p>地域の企業間ネットワークや産官学民連携における大学の果たす役割として、その間をつなぐ仲介役・コラボレーションによる化学反応を促す触媒役が期待される。本研究において、その一歩として学生による各社の紹介冊子を日/英併記で刊行し、対外プロモーションやインバウンド客への紹介などで活用、各社への新しいビジネスパートナー開拓に役立てられている（別途資料参照）。こうして innovation 「新結合」を目指す各社の経営姿勢に関与することで、学生の Entrepreneurship 醸成が促された。</p>					

※別途研究成果資料を添付する。

令和8年3月24日提出

SNS活動（一部抜粋）

